



2011年1月1日発行 第223号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21-9階 TEL.(03)3356-8217 FAX.(03)3356-8637 発行責任者:中野勝博 http://www.marrow.or.jp/ E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

新年のご挨拶

全国骨髄バンク推進連絡協議会

会長 大谷貴子



新年明けましておめでとうございます。

今年、日本骨髄バンクは二十歳になります。骨髄バンクを介した骨髄移植も、今では年間1千例を超え、さい帯血移植を加えると、非血縁者間の造血細胞移植は2千例を超えるペースで実施されています。これは、20年前にはとても考えられなかったことです。皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

一方で、今この瞬間も病氣と闘っている患者さんが、たくさんおられます。また、血液疾患に限らず、経済的理由から治療を諦めざるを得ない方もいらつしやいます。日本の医療制度は、まだまだ本当に必要なところにその手が差し伸べられていません。

私たちは、すべての人に優しい医療の実現を願いながら、今年も患者さんの目線で運動を進めてまいります。どうぞ、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

厚生労働省 健康局疾病対策課 臓器移植対策室長 辺見聡

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

骨髄バンク事業は、今年、20周年の節目の年を迎えます。この間、ドナー登録者は37万人を超え、また、骨髄バンクを介して行われた骨髄移植は1万2千例を超えました。

これもひとえに、全国各地でバンクを支えて下さるボランティアの皆様方やバンク事業に携わる関係者の方々の御理解、御支援の賜物であり、この場をお借りいたしました。深く感謝を申し上げます。

しかしながら、ドナーが見つからず造血細胞移植を待たざるを得ない患者さんは未だ多く、依然としてより多くのドナー登録を必要としている状況に変わりはありません。

昨年8月の厚生科学審議会の造血細胞移植委員会においては、バンク事業における末梢血幹細胞移植の導入についてご了承いただき、昨年10月より段階的な実施が始まったところ。厚生労働省臓器移植対策室といたしまして、これを機に、より一層ドナー登録への理解が進むよう、今後とも関係機関と連携して普及啓発活動等による事業の

推進に努めてまいります。引き続き、日々進歩する医療技術への対応や、一人でも多くの患者さんが造血細胞移植を受けられることができるような体制の整備など、造血細胞移植対策に全力で取り組んでまいります。

結びに、貴協議会のますますの御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団 理事長 正岡徹



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年のドナー登録者は、37万5千人に達し、骨髄移植は、累計で1万2千4百例となりました。

これらは、ボランティアの皆様や関係者のご尽力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。また、昨年10月には、これまでの骨髄移植に加え、末梢血幹細胞移植が導入され、患者さんの救命の機会が拡大されました。

ジャパンの支援が再開されることとなり、12月には、財団設立20周年を迎えることとなります。今後もドナー登録を推進し、より一層のコーディネート期間の短縮やドナー安全対策の強化を図り、骨髄移植や末梢血幹細胞移植を必要とする患者さんに、一人でも多く移植の機会が訪れますよう、努力を続けてまいります。

このことから、これらの移植を必要とする患者さんのため、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本赤十字社 血液事業本部長 西本至



我が国で骨髄バンク事業が開始されてから、今年で20年目を迎えます。これもひとえに、貴協議会をはじめ、事業を支える全国のボランティアの皆様や関係者の方々の御尽力の賜物と、深く敬意を表します。

日本赤十字社では、昨年、骨髄データセンターシステムを更新し、ドナー登録者の情報管理の強化を図りました。今年1月からは、末梢血幹細胞移植も見据えたドナー登録受付業務を開始いたしますが、一人でも多くの患者さんに移植の機会が訪れますよう、今後とも関係機関と連携し、骨髄バンク事業の推進に努めて参る所存です。

日本さい帯血バンクネットワーク

会長 中林正雄



新年明けましておめでとうございます。昨年は、宮城さい帯血バンクの経営危機が報じられ、さい帯血バンク事業の経営基盤の不安定さが社会的に広く知られることとなりました。また、11月末には、環境省が進めるエコチル調査に協力する産科施設と、各さい帯血バンクが提携する採取産科施設とがかなり重複するという事態となり、さい帯血の確保が懸念されるなど様々な問題が表面化した年でした。

そのような中、さい帯血移植は年間1千例を超えるようになり、骨髄移植とともに造血細胞移植医療を支える重要な治療法となり、標準的な医療として社会に認知され、責任の重大さを感じる年でもありました。

本年も移植を必要とする患者様のために一層努力し、さい帯血バンク事業の発展を目指してまいります。最後に、貴協議会がますますのご発展と皆様のご健康を心より祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

全国骨髄バンク推進連絡協議会 理事長 中野勝博

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、私どもの活動に格別のご支援ご指導を賜わり、厚く御礼申し上げます。

昨年は、念願でありました認定NPO法人の認証を、国税庁より受けることが出来ました。これにより税制上の特別措置が受けられますので、皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

事業につきましては、骨髄バンク20周年の節目を迎えるに当たり、各地で様々な事業を開催していただきました。その一つ、福島で行われた骨髄バンク20周年の同窓会「めぐりあえたこと」があり、皆様のご参加、ご協力、ご声援、誠にありがとうございました。

本年も共催事業などを通じて全国の皆様と交流を深め、造血細胞移植の更なる躍進を願いながら、理事・事務局員一同、気を緩めることなく、常に患者さん救済の姿勢を忘れずに、積極的に活動に取り組んで参ります。

今年一度、皆様にも更なるご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする 骨髄バンク NOW

〈財団マンスリーJMDP(12月15日発行)より抜粋〉

●非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取施設認定について
現在、非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取施設の認定を行っています。これまで全国で20施設から申請があり、12施設については施設訪問、審査ともに完了しました。今後の新規認定施設の情報につきましては、骨髄移植推進財団のホームページにて随時公開していく予定です。

●来年1月からドナー登録会の説明が変わります
新規ドナー登録者については、来年1月から新たに末梢血幹細胞移植の説明が加わります。これに伴い、「チャンス」や「解説グラビア」、DVD「骨髄ドナー登録希望者の方へ」等の資料も変更になります。

◆日本骨髄バンクの現状(平成22年11月末現在)			
	10月	11月	累計数
ドナー登録者数	4,497	3,339	374,857
患者登録者数	188	242	2,862
骨髄移植例数	120	92	12,416
20歳未満ドナー登録者	-	187	13,832* 1</td
51歳以上ドナー	248**2	146**3	20,706**4

■11月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,132人、献血併行型集団登録者/2,018人、集団登録者/69人、その他/120人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月~

制度改革をして造血細胞バンクを見据え 市民シンポジウムから始まる新たな一歩

12月18日、スター貸会議室新宿(東京)にて、造血細胞バンク・市民シンポジウム「骨髄バンク・さい帯血バンクの抜本的制度改革への道すじ」(全国協議会主催)を開催しました。

第一部では、骨髄バンクの設立から約20年、さい帯血バンクの設立から約11年が経ち、両バンクとも制度疲労により様々な問題が発生しているという現状分析が全国協議会の三田村真から報告され、さらに同一の視点から、日本における制度改革の検討に向け、米国での法整備に関する視察

報告が野村正満副会長より行われました。また、移植現場から見た制度の矛盾と法整備の必要性について、谷口修一虎の門病院血液内科部長にご講演いただき、現場の声を伺う貴重な機会となりました。

第二部では、「望まれる造血細胞バンク像」と題して、第一部の報告者3名に、さい帯血移植経験者の加藤徳男氏、陽田秀夫副会長を加えてパネルディスカッションが企画され、来場者をお交えて活発な意見交換が行われました。

最後に参加者一同でアピール文を採択しました。アピール文の内容については、次号で報告致します。



理事長 中野勝博

謹んで新年のお慶びを申し上げます。



心からのご寄付に 感謝申し上げます

11月21日～12月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ(株)	現金	3,500円
埼玉県立大宮広陵高校	現金	20,000円
ノーレート麻雀ニューロン	現金	200,000円
三井化学(株)	現金	400,000円
桜井商店	現金	1,541円
豊島区明るい社会づくりの会	現金	100,000円
宮代町立百間中学校生徒会	現金	31,307円
宮代町立百間中学校PTA	現金	20,000円
千葉 充子	現金	5,000円
永井 弘幸	現金	35,000円
山田 康博	現金	9,880円
江上 義紀	現金	10,000円
黒田 多喜男	現金	10,000円
平岡 ユミ子	現金	5,000円
鈴木 純子	現金	1,680円
櫻井 康司	現金	30,000円
匿名	現金	3,000円
匿名	現金	580円
匿名	現金	16,380円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	10,000円
●白血病患者支援基金		
今内科消化器科医院	現金	2,829円
日本化学エネルギー鉱山労働組合協議会	現金	50,000円
山口 久男	現金	2,169円
中間 宏美	現金	1,000円
●佐藤さち子患者支援基金		
三条発掘ネット 刈屋栄二	現金	41,619円
トリエ ハルヒコ	現金	30,000円
峯 カズミ	現金	3,000円
中村 信	現金	10,000円
		(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

全協第2460号
2010年12月20日

厚生労働大臣
松本 龍雄

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 大谷 貴子

「子どもの健康と環境に関する全国調査」における
さい帯血バンク事業への影響回避について (要望)

貴職におかれましては、日頃より環境保全と国民の健康確保のためにご尽力されておられますこと、心より感謝申し上げます。

さて、様々な化学物質が私たちの周りに氾濫し、それらの曝露による人体や環境への影響が大きな社会問題となっている今日において、子どもの健康に対する化学物質のリスクを把握し、その悪影響を未然に回避することは極めて重要なことであり、私どももいたしまして、そのための見解を収集する「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)の必要性は、十分に理解しているところでございます。

一方で、この調査のための試料として出産時に採取されるさい帯血は、以前は医療廃棄物でありましたが、現在では血液製剤等の患者を救うことのできる医療上の貴重な資源となっております。日本さい帯血バンクネットワークに加盟する全国11の公的さい帯血バンクから供給されるさい帯血によるさい帯血移植は年々増加の一途をたっており、平成22年も年間1000例ペースで移植が行われております。このさい帯血の確保に当たっては、各さい帯血バンクとも最大限の努力と時間を費やして妊婦さんや採取医療機関との信頼関係を構築し、さい帯血の提供・採取にご協力いただいております。しかしながら、それでも十分な数の確保は難しいのが現状です。さい帯血移植のニーズの増大が予想される今後は、それがさらに難しくなると懸念されております。

今回、エコチル調査の概要が示されて大きな懸念材料として浮上してきたのが、さい帯血バンクの主要な提携採取医療機関がエコチル調査の協力医療機関の候補となっていることです。もし、エコチル調査にさい帯血が回されることで、さい帯血バンクでの採取・保存数が確保できなくなると、さい帯血移植が必要な患者の救命に極めて深刻な事態を招く虞があります。エコチル調査の趣旨は国民の健康確保であるはずですが、この調査自体が、国民の健康の機会を奪う原因となるような状況は回避しなければならぬと私どもは考えます。

以上の点に鑑み、さい帯血移植を必要とする患者の救命のため、エコチル調査の実施に関し、下記事項を要望いたします。

記

「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)を、公的さい帯血バンク事業に影響を及ぼさないような方法で実施してください。具体的には、以下の措置を講じて下さい。

1. 公的さい帯血バンクのある地域をエコチル調査対象地域から除外し、エコチル調査の協力医療機関の選定が、公的さい帯血バンクの提携採取医療機関と競合しないよう、環境者に要請して下さい。
2. エコチル調査の協力医療機関が公的さい帯血バンク提携採取医療機関と競合しないよう、その選定に配慮して下さい。

以上

全協第2461号
2010年12月20日

厚生労働大臣
細川 律夫

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 大谷 貴子

「子どもの健康と環境に関する全国調査」における
さい帯血バンク事業への影響回避について (要望)

貴職におかれましては、日頃よりさい帯血バンク事業推進のためにご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

わが国の非血縁者間さい帯血移植は、国のご支援の下、平成12年の日本さい帯血バンクネットワーク発足から飛躍的な成長を遂げ、平成22年度は年間移植数も1000例程度行われることが予想されております。これは世界的にも最高水準であり、さい帯血移植により、多くの患者が命を救われております。さい帯血移植を支える公的さい帯血バンクには、さらなる患者救命のため、これまでに以上事業を推進していくことが求められております。

このような状況の中、環境省では、さい帯血を調査のための試料とする「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)の準備を進めております。この調査は、子どもの発育に影響を与える化学物質等の環境要因を明らかにし、化学物質のリスク管理の強化を通じて子どもの健康の確保と安全・安心な子育て環境を実現することを目的に実施されるもので、私どももいたしまして、その趣旨は理解しているところでございます。

しかしながら、環境省からさい帯血バンクネットワークへのエコチル調査に関する説明で、さい帯血バンク事業の基盤を揺るがしかねない内容が明らかとなりました。エコチル調査でさい帯血採取に協力する候補医療機関と、公的さい帯血バンクの提携採取医療機関とが競合しているのです。しかも、調査協力医療機関に対する謝礼は、さい帯血バンクのそれよりも手厚いと聞いております。

公的さい帯血バンクではこれまで、最低限の努力と時間を費やして妊婦さんや採取医療機関と信頼関係を構築し、さい帯血の提供・採取にご協力いただけてきました。しかしながらそれでも十分な数の確保が難しいのが現状です。もしエコチル調査にさい帯血が回されることになれば、公的さい帯血バンクでのさい帯血の確保がさらに難しくなり、さい帯血移植が必要な患者の救命に極めて深刻な事態を招く虞があります。エコチル調査の趣旨は国民の健康確保であるはずですが、この調査自体が、国民の健康の機会を奪う原因となるような状況は回避しなければならぬと私どもは考えます。

以上の点を鑑み、環境省のエコチル調査が公的さい帯血バンク事業の推進に影響を及ぼさないよう対応していただきたく、下記事項を要望いたします。

記

1. 公的さい帯血バンクのある地域をエコチル調査対象地域から除外し、エコチル調査の協力医療機関の選定が、公的さい帯血バンクの提携採取医療機関と競合しないよう、環境者に要請して下さい。
2. 公的さい帯血バンクが採取医療機関との関係を強化し、継続的・安定的にさい帯血採取に協力していただくよう、財政面での措置を講じて下さい。

以上

厚生労働大臣・環境大臣へ要望 エコチル調査にさい帯血バンクへの配慮を

環境省が準備を進めていた「子どもの健康と環境に関する全国調査」がスタートしました。これは化学物質などの環境要因の子どもへの心身の健康への影響の有無を、長期間、疫学的に調査するものです。

この調査では、妊婦の血液やさい帯血の採取を行います。その協力医療機関が、さい帯血バンクの採取機関の三分の一と重複していることが分かりました。しかも財政的に苦しい公的さい帯血バンクよりも高額な謝礼が支払われるなど、さい帯血バンク事業への影響が懸念されます。

当協議会では、公的さい帯血バンク所在地域をこの調査から除外するよう配慮を求め、厚労大臣と環境大臣に提出しました。

今月の共催イベント

北海道札幌市
雨にも風にも負けず
市民クリスマス会

12月3日、札幌市民ホールで開催された、キリスト教団体主催による札幌市民クリスマス会において、パンフレット「ドナーになるってどんなこと？」およびティッシュの配布、骨髄バンク

の北海道としては記録的な大雨と暴風の大荒れの天気でしたが、会場には約千五百名近くの人が来場、札幌支部会員6名でティッシュ配布を行いました。また、ホール入り口には骨髄バンクのパネルを展示し、来場者も足を止めてパネルを見てくれました。

クリスマス会当日は、12月の北海道としては記録的な大雨と暴風の大荒れの天気でしたが、会場には約千五百名近くの人が来場、札幌支部会員6名でティッシュ配布を行いました。また、ホール入り口には骨髄バンクのパネルを展示し、来場者も足を止めてパネルを見てくれました。

クリスマス会開始前には、主催者から寄付の授与式が行われ、協会を代表して寄付を受け取った札幌支部長がお礼の挨拶の中で「移植を希望している患者の6割しか移植を受けられていないこと、多くのドナー登録者が引き続き必要であること」を訴えました。(齊藤)

兵庫県姫路市
250名が来場
恒例クリスマスコンサート

姫路地区骨髄バンク推進センターは、設立以来、12月にクリスマスコンサートを開催して



路市立香寺中学校吹奏楽部、毎年ご協力をいただいている賢明女子中学・高等学校ハンドベル部の生徒さん達にご参加いただき、クリスマスソングや昔ながらの「コブクロ」の曲が演奏され、大変盛り上がりました。また会場では国際ソロプチミスト姫路の皆さんにより募金箱が廻され、多くの方々にご協力いただきました。

来場者には「チャンス」や献血についての冊子と共に、コンサート終了後にはボランティアの方から贈呈された「ひつじ」がプレゼントされました。

国際ソロプチミスト姫路、姫路さくらライオンズクラブの皆様からは毎年ご寄付を、そして兵庫県立大学体育会の皆様には長年に渡り骨髄バンク啓発活動にご尽力いただき、心からお礼申し上げます。これからも皆様との出会いを大切にしながら、骨髄バンクの普及・啓発活動に貢献できればと思っております。(濱田)

関東甲信越
時間ぎりぎりまで
活発な意見交換

12月12日、さいたま市の市民活動サポートセンターで「関東・甲信越ブロックセミナー」が開催されました。今回のセミナーは対象地域から30名近くの参加者が集まり、冒頭の全国協議会からの報告に対して、早速、活発な質疑応答がおこなわれました。

ブロックセミナー
により異なる日赤や行政との連携、団体運営の悩みなども率直に語られ、時間ぎりぎりまで意見や質問が続きました。

実際に顔を合わせる利点を生かした、今後の活動につながるセミナーとなりました。(骨髄バンク応援団 窪田)

北海道
求められる法整備
医療現場からの声

11月28日、道内5つの団体、道庁担当者、北海道脂帯血バンク事務局長を含む34名が参加して、北海道ブロックセミナーが開催されました。

前日は財団主催の説明員研修が行われ、PBSC Tやドナー登録会の現状、各地の活動状況

等も踏まえたセミナーとなりました。

日本の骨髄バンクが設立されて来年で20年、移植した患者数は1万2千人を超え、ドナー登録者数は37万人となっております。法整備は未だなされていません。2005年「ビル・ヤング法」が制定されたアメリカ合衆国を今年5月に訪れ、調査された全国協議会副会長の野村正満さんから実情についてお話を伺いました。また、北海道での造血細胞移植を当初から支え

各地のたより
お寄せください。

写真を添えてお寄せください。

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

患者、ドナー、家族それぞれの思いを知る、札幌北病院長菅院長の笠井正晴先生からは、医療者としての率直な気持ちや現場での問題点についてもお聞きする事ができました。造血細胞移植を希望する患者が速やかに救済されるために、ドナーが安心して提供でき、医療者ももっとゆとりを持って治療に専念出来るよう、まだまだ声を上げる必要があるのだと実感したセミナーでした。(北海道協会 神戸)

会津
メッセージは色あせず
今年も若い人たちへ

11月25・28日、会津若松市文化センターでMAMOのメッセージ展を開催しました。毎年恒例となった骨髄バンクパネル展ですが、今年では会津ユネスコ幼児画展との共催で行いました。MAMOのメッセージ展は、1998年、2002年に続き、今年で3回目になります。

少々色が黄ばんできた写真、小野寺夫妻の若かりし頃の写真をみるにつけ、時間の経過を強く感じずにはいられませんでした。

しかしマモ君が残したメッセージは、全く色あせていません。「何回読んでも泣けてくるね」と、涙をぬぐいながら展

兵庫
いのちと向き合う
大学祭で「輝き展」

兵庫教育大学では、神戸骨髄献血の和を広げる会の伴智代さんに協力いただき、11月20日、21日の大学祭(嬉望祭)の開催期間中に、「いのちの輝き展」を開催しました。

これは、兵庫教育大学と兵庫県が共催で造血幹細胞移植推進特別講座「いのちと向き合う」を開催するに併せて、より骨髄移植の現状を知っていただくことを目的として実施したものです。

当日は、学生をはじめ多くの来学者が足を止め、じっくり作品を鑑賞していました。

学生が骨髄移植を始めたとした造血幹細胞移植について理解を深めるとともに、将来、教員となった際の子どもの対応を考えるよい機会となりました。(兵庫教育大学・竹内)



当日は、学生をはじめ多くの来学者が足を止め、じっくり作品を鑑賞していました。

学生が骨髄移植を始めたとした造血幹細胞移植について理解を深めるとともに、将来、教員となった際の子どもの対応を考えるよい機会となりました。(兵庫教育大学・竹内)